

中国人と日本人の国民性

国際文化学部 W130

一般的に外国人から見た中国人は自己中心的やサービス精神がないなど悪いイメージを持たれがちだ。逆に日本人は礼儀がしっかりとしていて自己主張も弱く控えめなイメージをもたれる。しかし、ほんとうにそうなのか、またどういうことがそういうイメージを持たせているのか。本稿では、そういった日本と中国の国民性の違いについて明らかにしていきたい。

まず、日本人と中国人の主な国民性の特徴についてみていく。中国人の特徴としては、自己主張が強く、自分のメンツを一番大切にするといわれている。そのため、個人主義だといわれることが多い。しかし、身近な近所づきあいなどになると、しつこいくらい親密に付き合い合おうとする。一方日本人の特徴としては、自己主張が弱く周りの空気を読んで協調性を保とうとし、また、外国人から見るとサービス精神が旺盛で親切な人が多いといわれる。しかし、近年の日本では、近隣の人々と必要以上に関わらない、他人への無関心などの特徴もある。

次に上記の特徴から、中国人と日本人の人間関係から見た国民性の違いについてみていく。中国人は基本的に自分の正しいと思ったことははっきりと言い、相手を傷つけないようにしながら上手にお互いが納得する結論を出そうとする。また、自分の考えと相手の考えが違う場合は、その違う点をはっきりと示そうとする。なぜ中国人がこのように自己主張をはっきりするのかというと、中国人にとって話し合いの場で発言しないということは、私はその話題に関して無関心だ。という意味になる。だから、その場で自分の意見を発言しないということは自分が損してしまうことになる。また、中国人はメンツを非常に重要視する。ここでのメンツとは「見栄」や「プライド」という意味でもあるが、そのほかにもさまざまな複雑な意味も持っている。中国人のメンツとはいつからあったのか、「孟子」の尽心編には「名声を重んじる人間は、自分の名誉を守るために、たとえ千輛の戦車を出すほどの大国を人に譲って惜しまない」(孫、2001、180項)というような意味の言葉が残されている。おそらくその時代から中国人のメンツを重んじる文化はあったのだろう。もちろん、日本人もメンツを大切にはするが、それとはわけが違うのである。だから、中国人のメンツをつぶす行為は最大の無礼だとされている。例えば、人前で自分の欠点や失敗を指摘されることを嫌い、人に謝るという行為も自分のメンツを傷つけることにつながるためあまりしない。謝るということは負けを認めるという考えになる。以上のことから、中国人は個人主義だという

武士階級の作法をいあは(歴代は
「関係がつかうように思っている」

ことがわかるだろう。

一方、日本人は、人間関係を保つことに異常なほどの神経を使う。もし、発言する場で日本人が中国人のように自己主張をしすぎると人はあまりいいようには思わないだろう。日本人の場合は、自分の意見を押し通すことはせず、相手の意見に反応し、その意見に影響を受けることが多い。つまり、自分の意見と相手の意見のバランスをとって、そこから自分の判断を出すのである。また、日本人は「恥」を重んじる国民であるといわれている。これを「恥の文化」(孫、2001、179項)という。この文化はいつからあったのだろうか、「切腹」という言葉があるが、昔の日本人にとって「切腹」というのは名誉のある死に方だった。自分の誠実さを「切腹」することで示し、罪を償ったのだ。これは、現代の他人の目を気にする日本人のカタチがすでに形成されていたということを表すのではないだろうか。

現在の日本人の多くは、人に笑われたくない、恥をかきたくないという思いが強いため、正しいと思うから行動するのではなく、世間がどう思うかで自分の行動範囲を決めるのである。例えば、赤の信号を渡ろうとしたときに、車が来てクラクションを鳴らされる、それを信号待ちをしている人に見られたとき日本人は恥ずかしいと思うだろう。つまり、他人の目によって行動が規制されるのである。このことから、日本人は集団を意識した集団主義だということがわかる。

他人を意識する、しないという人間関係の中で、お互いの国の「敬語」の使われ方について試してみる。中国人の敬語は目上の人に対して使う丁寧語のような程度のものであり他の欧米の国とさほど変わらない。ここでの目上の人とは、地位や利益的なものによるものだろう。なぜならそのような人々を敬うことが自分にとって有利なことであるからである。一方日本人の場合は年齢で敬語を使い分ける。また敬語の種類もたくさんあり、時と場合によって使い分けなければいけない。またこれは、人間関係を保つということにもつながる。

次に、日本人と中国人のホンネとタテマエについてみていく。中国人は上記で示したように思ったことはしっかりと発言するので基本的にホンネで話をするが、例外がある。それは、政府の政策に対してである。中国人はもし、中国政府の政策に対して不満があったとしてもそれを他の人にいうことはない。なぜなら、政府への批判や反対は中国では「非国民となる」(穴田、1989、p3479)からである。もし中国人に対してそのような質問をしたとき、皆当たり障りのないホンネのように聞こえるタテマエを言うのだ。それは、中国の社会主義国家という体制がそうさせているのである。もし、すこしでも不満を漏らせばそれが共産党への批判につながり、罰を受けるだけでなく自分の破滅へとつながることもある。そうなれば、タテマエを使わざるを得なくなるのも当然だろう。つまり、中国人は国家レベルの規範性をタテマエとして使っているのである。

一方、日本人のホンネとタテマエは中国人とは使う場面が異なる。日本では、政策に関してはある程度批判や反対をすることができる。だからそこではタテマエを使わない。どこで使うのかというと、日本人は個人の利益のためにホンネとタテマエを使い分けるのである。

自分自身を正しく誠実に思っている日本人も
多々いると思うが、この言はどう考えますか？

例えば、会社で上司に思ってもいない「おだて」というタテマエを使って会社での自分の地位を安定させようとするのだ。他にも友人や知り合いに使うことが多い。これは、上記で述べた人間関係を保つために異常なほどの神経を使う日本人の特徴と結びつく。こうやって日本人は日常レベルのタテマエを使っているのである。

最後に、自己主張が強いのは自己中心的で個人主義になりがちなどころはあるが、しっかりと自分の意見が言えることは日本人にはない部分であって、見方を変えるとそこが中国人のいいところなのかもしれない。自己主張が弱いのは、他人を気にしすぎるあまりタテマエばかりになってしまう部分がある。しかし、いい意味で言うと日本人は相手の空気を読み取り調和を保つことができる。これは中国人にはない部分で日本人のいいところであるだろう。要するに、どちらの国民性にも良い部分と悪い部分があるため、両国の国民がそれをしっかり理解できれば良いご近所付き合いができるのではないかと筆者は考える。

日本人と中国人の性格(DR性格?)を断片的に述べた後、
社会的背景をさらに具体化することかいてほしい。さらに
興味深いレポートにたどり着くといいです。

《参考文献》

- ・穴田義考監修 (1989) 『日本人再考 in China 日本人と中国人の国民性比較』人間の科学社
- ・林知己夫 (2004) 『心を測る：日本人の国民性』勉誠出版
- ・孫勝強 『中国人と日本人の文化的異質性』